

県生協連 NEWS

●発行：徳島県生活協同組合連合会

●発行日：2023年1月11日 (No.27)

●住所：徳島県板野郡北島町中村字東堤の内30-3

●TEL：088-698-0505



『 コープ自然派しこく (子ども笑顔基金プロジェクト) 』

安心な食べものを届けよう『子ども笑顔基金プロジェクト』

組合員がコープの宅配を利用して得られたポイントを寄付していただき、それを資金としてコープ自然派しこくの商品と交換して、子ども食堂さんにプレゼントする活動をすすめています。組合員同士の助け合いの力を、子どもたちの未来を守る取り組みにつなげ、一人でも多くの子どもさんの笑顔がみられるように活動を広げていきます。

目次

- p1 新年のごあいさつ (徳島県生活協同組合連合会：会長 大久保 秀幸)
- p2 会員報告 生活協同組合コープ自然派しこく
- p3 会員報告 徳島県職員生活協同組合、生活協同組合とくしま生協
- p4 会員報告 徳島県学校生活協同組合
- p5 会員報告 徳島県共済生活協同組合
- p6 会員報告 徳島県健康生活協同組合
- p7 会員報告 徳島大学生生活協同組合



新春のご挨拶

徳島県生活協同組合連合会 会長 大久保 秀幸

謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

新年あけましておめでとうございます。

平素より、会員生協の皆さまには、連合会の活動にご支援ご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

昨年は、1年を振り返って見ると、1月から「新型コロナウイルス」の変異株であるオミクロン株の感染拡大が急激に広がり、コロナ禍の中で3年目を迎えることとなり、秋にかけては感染者数も減少傾向となりましたが、11月に入り感染者数が増加傾向となるなど、1年を通して新型コロナウイルスへの感染予防対策を実施しながらの1年でした。その結果、2年続けて経済や暮らしへの影響が出た1年となりました。

さらに、2月末から始まったロシアによるウクライナへの軍事侵攻も未だに終わることなく続いており、世界中の経済に大きな影響を与え、原油価格の高騰やさまざまな飼料や肥料・資材などにも大きな影響を与え、消費者の暮らしを直撃する物価上昇となり、大きな暮らしへの影響が出た1年でもありました。

新年を迎えた2023年も昨年以上に暮らしへの厳しさは大きくなることが予測されており、引き続き、消費者を取り巻く環境はさらに厳しさが増すことが考えられます。

そういった中、協同組合の根幹ともいえる人と人とのつながりが遮断され、危機感を感じる事態となりましたが、生活協同組合の創意工夫により場所や時間を同じくしなくとも、つながりを実感できる取り組み事例が広がりました。これは、誰一人取り残さない協同組合の理念をもとにコロナ禍でも安心して日々の生活を送ることができるよう実践してきた賜物です。引き続き、「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成に向けて、協同組合間の連携はもちろんのこと、国や地方自治体、企業とともに取り組みを広げていきたいと思っております。

さて、今年の干支は「癸卯（みずのと・う）」です。「癸卯」は諦めず無理はせず、停滞した世の中に希望が芽吹く年であり、寒気が緩み・萌芽を促す年とも言われています。

「癸卯」は停滞した世の中に希望が芽吹き、花開く助走の年。これまで積み重ねてきた自身の力が試される年でもあるため、最後まで諦めずに希望を持ち続けることが道を開く鍵になります。ここ数年はコロナ禍の中でさまざまな事業や活動が制約されていましたが、新たなことが生まれる年にしたいと思っております。ただ、今年も厳しい経済環境の中で、益々、暮らしの厳しさは増すことが考えられますが、あらためて一人ひとりの消費者の暮らしに合わせたとりくみを充実させるとともに、さらに深化させていくことを目指してまいります。

本年も、今まで同様、組合員のみなさんのご支援をお願い申し上げますとともに、みなさんのご多幸を祈念申し上げ、年頭のごあいさつとさせていただきます。

○生活協同組合コープ自然派しこく

〒779-0102 板野郡板野町川端字川敷田 11 番 1

TEL088-624-9200 FAX088-624-9300

ホームページ <http://www.shizenha.ne.jp>

●理事長 泉川 かおり ●常勤理事 北岡 徹

●組合員数 15,912 人 ●事業高 15.7 億円

新年あけましておめでとうございます。

ロシアによるウクライナ侵攻が長期化し、いまだ終わりの見えない状況が続いています。

そして、3年経とうとする今も新型コロナウイルス感染症の影響を受けた「With コロナ」の暮らしを強いられています。

このような状況は、私たちの暮らしにさまざまな変化を起こしました。ガソリン価格や物価の高騰、そのような中でもコープ自然派しこくは、対応をすすめ、みなさまに安心安全な商品を届けてまいりました。

組合員のみなさまのポイントの寄付で運営する子ども笑顔基金も引き続き順調に運用をさせていただいております。



【キッズSTNARUTOへ食品のお届け】



【クレール子ども食堂へ食品のお届け】

2021年の秋より新板野センターが稼働し、組合員数も58,000人(前年同月比105.8%)を超え順調に伸長し、2022年度からは朝焼き

パンも四国4県にお届けすることができるようになりました。



【子ども食堂 宙へのパンのお届け】

地球温暖化や生物多様性保全への対応として農水省が発表した「みどりの食料システム戦略」は有機農業の面積を現在の0.6%(2.52万ha)から2050年には25%(100万ha)に拡大する計画で、日本のオーガニック市場拡大をめざしています。

コープ自然派では日本の農業を守り、食料自給率向上の実現のため「国産派宣言」を基本スローガンに掲げています。「誰もが有機農産物を食べることができる社会」づくりをすすめ、それが持続可能な社会の実現につながると考えています。

そして、コープ自然派しこくでは、JA 東とくしまと協力し、昨年の9月から徳島県小松島市全域の幼、小、中学校の給食に無農薬米の提供をはじめています。この取り組みは、オーガニック給食の推進の第一歩であり、同時に有機農業推進のための大きな出口戦略の一つです。

環境の保全に向けては、NPO法人「とくしまコウノトリ基金」との活動連携も重要です。徳島県鳴門市で展開されているビオトープの整備には組合員からのカンパ(環境支払いカンパ)が活用され、コウノトリをはじめ生物と環境の多様性の維持とエリアの拡大に寄与しています。

新しい年が、みなさまにとってさらに良い年となりますよう、お祈り申し上げます。

本年もどうぞよろしくお祈りいたします。

生活協同組合コープ自然派しこく

理事長 泉川 香

○徳島県職員生活協同組合

〒770-8570 徳島市万代町1丁目1(県庁内)

TE 088-621-3061 FAX 088-624-0170

- 組合長 志田 敏郎
- 副組合長 松本 光弘
- 組合員数 3,975人
- 事業高 1.09億円

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお祈りします。

徳島県職員生活協同組合では、県職員の福利厚生の一翼を担い、組合員に親しまれる生協として、売店事業における「新商品の供給・販売」や、食堂事業における「新メニューづくり」など、様々な工夫を重ねています。

現在は、なかなか新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない中、県庁万代庁舎11階の食堂における席数の削減、地下1階の売店におけるレジでの飛沫感染防止対策などに取り組みながら、販売促進に努めています。

先行き不透明な経営環境にありますが、食堂においては、関係機関とタイアップした食のフェアを開催しており、8月には、「野菜摂取量アップ応援フェア」として、「野菜増量メニュー」を提供するほか、「真夏のカレー&冷やし麺祭り」を実施しました。

10月からは、「阿波ふうどメニューキャンペーン」に参加し、10月31日～11月4日の間、第1弾キャンペーンとして、「炙り阿波尾鶏の肉じゃが」「阿波尾鶏サラダ塩ラーメン」「阿波尾鶏のピリ辛たぬぎ蕎麦」「秋野菜すだちそうめん」「魚のおろし煮～すだち風味～」「牛肉醤油ちゃんこ鍋～すだち添え～」「若鶏の塩から揚げ～すだち添え～」「豚肉ネギ塩すだち炒め」を提供しました。

8品合計で500食程度を、550円の定食メニュー（おかずを2皿選ぶことができます）の一品として提供し、利用者には非常に好評でした。

第2弾としては、なんと金時や鳴門わかめなどの徳島特産の食材を用いた料理を味わっていただきます。



さらに年明けには、「ジビエフェア」の開催も予定しており、シカ肉などを用いた料理を提供し、ジビエの調理方法や美味しさをアピールしながら、消費拡大に貢献していくこととしています。

また、11月14日及び18日の両日には、日本生命保険相互会社に売店のレジ横スペースを活用いただき、健康づくりの一環として、簡易な測定機器を使った野菜摂取量チェックを行ったところです。

これからも、組合員の利用拡大や継続的利用を目指して、徳島のブランド産品を活かしながら、季節や時の話題に応じた魅力的なイベントを実施していきたいと考えています。

徳島県職員生活協同組合 組合長 志田 敏郎

○生活協同組合とくしま生協

〒771-0289 北島町中村字東堤の内 30-3

TEL088-698-0505 FAX088-698-872

ホムーン <http://www.tokushimaseikyoku.or.jp>

- 理事長 大久保 秀幸
- 専務理事 堺谷 信行
- 組合員数 120,624人
- 事業高 116.9億円

組合員さんの暮らしに役立ち・喜んでいただくことを最も大切に!

新年あけましておめでとうございます。

一昨年確認された新型コロナウイルスも次々と変異し、変異したオミクロン株の感染力は高く、8月に全国で過去最高の感染者数となりました。未だに収束は見通せない状況ではございますが、今年も、感染症対策を徹底し、安心してご利用いただけるよう努めていきます。

また、「一人ひとりの組合員さんのくらしに合わせたとりくみを大切にして、くらしに役立ち・喜んでいただくこと」を、さらに深化させるとともに強化していく年とします。

さて、その第一歩として4月からは18年ぶりに新しく宅配事業の配送センター「名西支所」が稼働します。とくしま生協の事業の柱である宅配事業は新たな拠点である「名西支所」が稼働することで5支所体制（美馬支所・阿南支所・徳島南支所・板野支所・名西支所）になります。5支所体制の中で、今まで以上に配送効率などを高めることで、組合員さんのくらしにさらに役立ち、今まで以上に経営貢献できる宅配事業を目指します。

また、電気代の高騰やさまざまな商品の値上げ・包装資材などの値上げなどによって厳しい経営となっている店舗事業では、組合員さんのくらしに必要な商品を必要な量目で提供し、多くの組合員さんが利用してもらえる店舗事業を今以上に深化させ、損益構造の改善をすすめていきます。そして、安くて保障がしっかりしているCOOP共済やとくしま生協が取り扱っている保険関係の商品を知らせること・伝えきることを通して、万が一の保障面でも役立つことをすすめていきます。

2023年は干支にあやかって、希望が芽吹くということ期待し、これまでできた事業や活動を再開し、これまで以上にさまざまな事業や活動ができる年にしたいと思えます。

そして、これからみんなで創り上げていく「2023年度めざしたいこと」を組合員さんとともに役職員みんなで力を合わせて実現できるよう頑

張って行きます。

本年も、今まで同様、組合員のみなさんのご支援をお願い申し上げますとともに、みなさんのご多幸を祈念申し上げ、年頭のごあいさつとさせていただきます。

生活協同組合とくしま生協 専務理事 堺谷 信行

○徳島県学校生活協同組合

〒779-323 名西郡石井町石井字石井 1845-1

TEL088-679-1357 FAX 088-675-1315

ホームページ <http://www.tokugaku.jp>

理事長 野々村拓也 常務理事 須之内 学

組合員数 8,792人 事業高 6,900万円

～学校生協 魅力化～

新年あけましておめでとうございます。

昨年度は、社会全体にソーシャルディスタンスやWEB会議など新しい生活様式が求められている時代だからこそ、心理的には「学校生協は組合員の皆様の近くにいたい」との思いから、「学校生協 浸透化」を掲げ、様々な事業を展開しました。これに伴い、組合員の約75%が登録されているWEBシステム「マイページ」を活用して、年間に約100回の様々な情報を発信しました。その結果、皆様からは「学校生協はいろいろやっているね」と声をかけていただくことが増えました。

2022年度は、新型コロナ感染症に加え、ウクライナ情勢や円安、物価高騰など、先行きが見通せない状況にあります。しかし、今こそ未来を生きる子どもたちに希望を語るができるように、組合員の皆様には元気でいてもらいたいと願います。そのためにも、学校生協はその使命である「組合員の仕事や生活をサポートし、安心できる教育環境の確保」が必要です。そこで本年度は、「学校生協 魅力化」を掲げ、組合員にとって身近で魅力ある組織となるように、事業の見直しに積極的に取り組んでいます。

具体的には、「学校生協だより」や「共同購入申

込書」を利用して、組合員からの意見を募集しました。そうした皆様の声を受けて、「集団扱い火災保険」を始めました。すでに生命保険や自動車保険の団体扱いは定着していますが、これで火災保険も集団扱一括払による割引が可能になりました。

また、福利厚生事業としてこれまで実施していた「イチゴ狩り」が大人気で、毎年抽選でお断りする方が多く申し訳なく感じていました。そこで、新たに「みかん狩り」を募集したところ、定員 100 人に 171 組 565 人が応募されました。定員 160 人の「イチゴ狩り」とともに、これからも家族で参加できる機会を増やしていきたいと考えています。



【みかん狩り】



【イチゴ狩り】

さらに、昨年度から始めた福利厚生事業のウォーキング「ぶらり まち歩き」についても、歩くだけでなくコースの途中にある店を紹介し、そこで美味しいお菓子やパンを買っていただくために参加者全員に商品券をプレゼントしました。「学校生協はいいことやっているね」と喜んでいただいています。

学校生協では、組合員の皆様にとって身近で満足していただける組織であり続けるため、今後も新たな事業等に積極的に取り組み、経営改善に努めてまいります。

2023年がすべての組合員様にとって良い年になることを祈念いたします。

徳島県学校生協 理事長 野々村拓也

○徳島県共済生活協同組合

〒770-0942 徳島市昭和町3丁目35-1
TEL088-676-3593 FAX 088-625-2131
ホムンズ <https://www.zenrosai.coop/contact/zenkoku/tokushima.html>

●理事長 藤岡一雄 ●専務理事 乾 浩二
●組合員 88,579人 ●事業高 約390億円
新年、明けましておめでとうございます。

徳島県生協連加盟の各役職員、組合員の皆様には輝かしい新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。また、日頃のご支援に感謝いたします。

日本がめざす未来社会「Society5.0」。サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させた社会です。現在の情報社会では人間がインターネットを經由して情報やデータを入手し分析していますが、この未来社会ではサイバー空間のビッグデータを人工知能（AI）が解析し、フィジカル空間の人間にフィードバックされます。

経済発展が進み、確かに私たちの生活は便利で豊かになりました。一方、これに相反して解決すべき課題（SDGs達成など）も複雑化しています。特に、労働力人口の減少は深刻で、2030年には「600万人をこえる人手不足」が予想されています。また、産業のデジタル化の進展や人々の価値観も大きく変わっています。このため、IoT や人工知能（AI）、ビッグデータの活用が私たちの最大の課題となります。2022年度から4年間の「中期経営政策 2025—変革と創造」では、社会の環境変化や課題の変化に適応し、これまでの事業と運動にデジタル技術を取り入れた「新しいたすけあい」の創造・実践をめざします。

具体的には、①すべての手続きに WEB 機能を高め、利便性を確保するだけでなく、直接対面・

オンライン対面を複合的に活用したコミュニケーションで一人ひとりに寄り添い、身近な存在になること、②魅力ある商品と最適な保障設計に加えて日常生活サポートを行う「こくみんLifeサポート」制度を創設すること、③共済事業を通じた社会的課題(SDGs達成)への参加機会を拡大し、たすけあいの輪を広げる。また、「防災・減災」「環境保全」「子どもの健全育成」を中心とした社会貢献活動に取り組むことです。

今年は、こくみん共済制度が誕生して40年を迎えます。徳島県共済生活協同組合は、人間の本能であり英知でもある「たすけあい」の心と仕組みを活用し、地域共生社会の実現と生活の安心になくてはならない存在感のある共済団体として成長していきます。

本年も引き続き、皆様のご支援をいただけるようお願いいたします。

徳島県共済生活協同組合 理事長 藤岡 一雄

○徳島健康生活協同組合

〒770-8547 徳島市下助任町4丁目9

TE 088-654-8363 FAX 088-625-0058

ホムパージ <http://www2.tcn.ne.jp/~hcoopt/>

●理事長 児嶋誠一 ●専務理事 吉野才治

●組合員 44,173人 ●事業高 44.6億円

新年あいさつ(2023年)

新年あけましておめでとうございます。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で、組合員活動にて自粛や延期が続いており、この3年間で積み重ねてきた活動が大きく停滞する状況となっていました。10月14日(金)、コロナ禍のため2019年の広島県での開催後、延期を余儀なくされていた中四国組合員交流集會を徳島でようやく開催するなど、少しずつ組合員活動の再開を進めてきています。

中四国組合員交流集會では、初のオンライン開催で、いろいろと不慣れな点もありましたが、私

たちの暮らしの安全を改めて考えられるような内容の講演や分科会を行い、午前の記念講演では、徳島大学名誉教授の村田明広先生による、「南海トラフ地震と中央構造線」についての講演、そのあとは、「徳島ご当地クイズ」を行い、徳島県民なら

知っている当然の問題から、マニアックな問題まで20問出題しました。午後からの分科会では、6つの演題に分かれて、各生協の活動についての発表を聞いたり、中四国の組合員のみなさんと意見

交換をしました。また、5月21日にプレオープンした「認知症ふれあいカフェ かんかん」の取り組みを通して、徳島市包括支援センターとの連携を進めています。「ふれあいカフェ かんかん」とは、認知症について学んだり、相談したり、介護の疲れなどを癒すことができるカフェです。認知症の方だけでなく、その家族・地域住民・介護や福祉の専門家など、誰でも気軽に立ち寄ることができます。新たな出会いをつくり、地域との繋がりを深められる「ふれあいカフェ かんかん」に、気楽な気持ちでぜひ一度お越しいただければと思います。

徳島健生病院の新病院や別館の運用も進み、新型コロナウイルス感染症第7波でも、地域や組合員の期待に応えた医療の提供もでき、引き続き渭北地域における医療・介護と健康づくり・町づくりの拠点として地域の方々や組合員の「いのち」と「健康」を守り続ける活動をして行ければと思います。病院機能とともに、職員の医療・福祉・介護活動や、地域での組合員さんの保健予防活動・まちづくりの活動をとおして、「地域になくてはならない健康生協」を強く大きくしていきます。新型コロナウイルス感染拡大や、南海・東南海地震への対応も施設として充実し、安心して住み続けられるまちづくりを進め、生協組織の強みを生



かし、県・市・地域包括支援センター・社会福祉協議会・町内会などとの協同をいっそう強めていきます。本年もよろしくお願いたします。

徳島健康生活協同組合 理事長 児嶋誠一

○徳島大学生生活協同組合

〒770-0814 徳島市南常三島1丁目1

TEL088-652-1073 FAX088-626-5811

ホムパージ

<http://ha1.seikyou.ne.jp/home/tokushima-shop1/>

- 理事長 田中 秀治 ●専務理事 神田 斉宜
 - 組合員 9,603人 ●事業高 10.0億円
- あけましておめでとうございます。

徳島大学生協は大学における学びを支えるため、購買・書籍や食堂のほか、学生の学びや成長に貢献するための各種講座や体験の機会づくりなど、様々な事業を展開しています。

22年度は対面講義が増えたほか、3年ぶりに対面での大学祭が開催されるなど、学内に少しずつ活気が戻りつつあります。夕方ともなると、音楽系やダンス系サークル、阿波踊りの連などが練習に励む姿が見られるようになり、やっと学生たちも大学生らしい生活が送られるようになってきたとほほえましくなります。生協の経営は、客数ではコロナ前の約4割減、未だなお営業を再開できない店舗もありますが、それでも利用はゆっくりですが増加してきています。この秋から冬においては、恒例になりつつある、「ふれあい動物園」や「利用還元・大ガラポン抽選会」、さらに今年は生物資源産業学部が行う「牛乳でスマイルキャンペーン（消費拡大）」をJミルク徳島さんの協力を得て実施するなど、充実かつ実りある大学生活を送れるよう様々な取り組みをおこなってきました。

1987年11月14日に創立総会を開催してからちょうど35年が経ちました。当時の徳島大学の状況を知る方々も少なくなりましたが、当時の学生や教職員の諸先輩方が手を取り合い、力を合わせて生協を設立しました。



学生に癒しの時間をプレゼント
【ふれあい動物園】



組合員の2割が列をなす
【ガラポン大抽選会】



牛乳の消費拡大に取り組む学生たちとコラボ
【牛乳でスマイルキャンペーン】

以来、多くの組合員の支持のもと、学内の福利厚生を支えさらには学生の学びや成長に貢献する役割を帯び奮闘してきました。そして今、この厳しい環境を乗り越えていくために最も必要なことこそ、組合員の力です。徳島大学生協が、学生や教職員のもつさまざまな課題を解決し、要求を実現するための仕組みとして設立・運営されてきた歴史を伝えるとともに、今後も組合員と大学に貢献し続ける組織として、組合員の運営・参加を広げていかなければならないと思います。

今年はコロナ禍から脱却し、Withコロナ時代にふさわしい徳島大学生協の組織と経営へと再生・発展させていくための中期計画の初年度を迎えます。新たな時代にふさわしい組織と活動を行っていく決意とともに、チャレンジの年にしていきたいと思ひます。

徳島大学生協 専務理事 神田 斉宜